

一般演題

1. 当院における骨外集積の検討

今枝 功 仙田 宏平 長縄 慎二
大島 治泰 佐久間隆廣 安藤 和徳
鈴木 祥夫 青島 崇

(国立名古屋病院・放)

当院で施行した骨シンチ 2,761 件 1,959 症例で、腎尿路系を除く骨外集積を検討した。骨外集積陽性例は 182 症例 (9.4%) で、そのうち悪性新生物例は 122 症例 (6.4%) であった。悪性新生物例での出現部位ならびに集積因子は、軟部組織 28 例 (浮腫 10, 原発性腫瘍 7, 転移 6, 浸潤 5), 胸膜腔 21 例 (肺がん 8, 乳がん 8, その他 5), 腹膜腔 18 例 (消化管がん 6, 卵巣がん 3, その他 9), 肺 15 例 (肺がん 12, その他 3), 肝 14 例 (消化管がん 6, その他 8), 乳房 6 例 (乳がん 6), その他 20 例であった。

骨シンチは、骨外集積として悪性新生物の原発巣ならびに転移も描画した。また、骨外集積の浮腫等の所見から上大動脈症候群とリンパ節転移が間接的に診断可能であった。

2. ガリウムシンチグラフィにおける脾臓描出症例の検討

望月 隆男 高橋元一郎 金子 昌生

(浜松医大・放)

杉山 浩一 (国立東静岡病院・放)

川合 宏彰 (静岡済生会病院・放)

本研究の目的はガリウムシンチグラフィのびまん性脾臓集積上昇はどのような状態に見られるものであるかを知ることである。対象は当院で 3 年間に検査を受けた 210 例で背面のプラナー像を retrospective に検討した。判定は脾臓の集積が肝臓と同等か上昇しているものを陽性、低下しているものを陰性とした。結果は陽性 52.9%, 陰性 47.1% であった。陽性所見は肝硬変、サルコイドーシスで高頻度に見られ、また Chi-Square 検定にて女性、脾腫のある症例に陽性所見が見られる傾向が認められた。また報告では文献的に脾臓の高集積が報告されている症例の一覧

を呈示した。脾臓の高集積の機序は不明だが、鑑別疾患を考える際の一助となると思われる。

3. $^{99m}\text{Tc-MIBI}$ シンチグラフィが有用であった副甲状腺腫瘍の一例： $^{99m}\text{Tl-Tc}$ サブトラクションシンチグラフィとの比較

清水 正司 蔭山 昌成 瀬戸 光
呉 翼偉 神前 裕一 永吉 俊朗
森尻 実 野村 邦紀 渡辺 直人
柿下 正雄 (富山医大・放)

症例は 63 歳の男性、主訴は二次性副甲状腺機能亢進症、左上極副甲状腺腫瘍であった。40 歳で CGN を指摘され、46 歳より HD を開始した。血中 PTH-IN, HS-PTH, PTH-C, C-PTHrP は高値を示し、頸部エコーでは左上極の副甲状腺腫瘍のみを検出でき、他の 3 腺の腫大は指摘できなかった。Tl-Tc サブトラクションシンチグラフィでは左下極副甲状腺 (縦隔内異所性副甲状腺) および右下極副甲状腺過形成は検出できなかったが、Tc-MIBI シンチグラフィでは可能であった。Tc-MIBI 副甲状腺シンチグラフィは術前の局在診断率の向上、特に異所性副甲状腺の検出に有用であると考えられた。

4. 甲状腺好酸性腺腫内転移を伴う CEA 産生性肺癌と甲状腺乳頭癌の重複例

横山 邦彦 絹谷 清剛 小西 章太
利波 紀久 久田 欣一 (金沢大・核)
蘇馬隆一郎 (社会保険鳴和総合病院・内)

甲状腺乳頭癌と CEA 産生性肺腺癌の重複癌症例を報告する。82 歳の女性でめまいと嘔吐に続く食欲低下のため入院した。甲状腺は右葉が腫大し、周囲に小豆大までのリンパ節を数個触知した。US と CT では、甲状腺右葉に石灰化を伴う腫瘍と右側頸部リンパ節腫大が著明であったが、左葉の腫瘍は石灰化やリンパ節腫大が認められなかった。さらに ^{201}Tl は両側の腫瘍と頸部リンパ節へ集積したため、両側の癌